

— 未来の美馬市を語り合う — 四国三郎の郷で地域づくりフォーラム

吉野川中流域の地域づくりを考える『吉野川中流域（美馬）の未来を語ろう～美馬4馬力の地域づくりフォーラム～』が3月19日、四国三郎の郷で開かれました。

大分県佐伯市で観光大使を務める矢野大和広報係長が「愚痴を言っても始まらない」と題し、基調講演。家族や職場などの身近な出来事を題材に、ユーモアあふれる語りで、集まった250人を大いに笑わせていました。その中で「何事にも否定ではなく、肯定する考え方で取り組むよう心掛ける。そうすることで、いろいろなチャンスが生まれてくる」「チャンスを生かそうとする気持ちと行動が大切」などと呼び掛けました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、美馬未来塾の千葉昭彦代表をコーディネーターに、NPO法人美馬体験交流の会の田中義美理事長と牧田市長、国土交通



▲ユーモアを交えて講演をした矢野さん



▲美馬市の将来について意見を交わしたパネルディスカッション

省徳島河川国道事務所の石川浩所長、吉野川市国際交流協会の吉野美保交流部長、飯泉徳島県知事の5人がパネリストとなり意見交換。子どもたちとの体験学習などを紹介した田中理事長は「住民が自立したまちづくり、地域のネットワークづくりを進めていきたい」、牧田市長は「市内にある固有の文化や観光資源を活かし、“四国のまほろば”を目指したい」、飯泉知事は「美馬市には全国に誇れるものがたくさんある。地元がそれらをよく知ること、未来への可能性が開けてくる」などと話しました。

「みんなが国際人としての意識をもって」協町で講演会

シンガポール赤十字副総裁、トリニダード・トバゴ共和国名誉総領事などを務めた胡曉子（アキコ オー）さんの講演会（美馬市青少年健全育成市民会議、市教育委員会主催）が3月4日、協町福祉センターで開かれました。

「日本人が知らない日本の姿」と題し、胡さんは市内の中学生や一般の人ら約200人を前に「皆さん一人ひとりがすでに国際人です。その意識をもって世界各地に旅立ち、さまざまな経験をしてほしい」と呼び掛けました。また、世界各地を飛び回ってきた経験から「日本人のいけないところは、あいまいな返事が多いこと。イエス、ノーとはっきり返事ができるように意識づけてください」と、国際人としての心得を伝えました。



▲国際人としての心得を伝える胡曉子さん